

環境にやさしく、

安心な

未来のために

株式会社 球磨村森電力

代表取締役・球磨村復興推進アドバイザー

中嶋 崇史 氏

Takafumi Nakajima



熊本県南部に甚大な被害をもたらした「令和2年7月豪雨」。その被災地の一つである球磨村は復興を目的とした「『脱炭素×創造的復興』によるゼロカーボンビレッジ創出事業」に取り組み、2022年には環境省の「脱炭素先行地域」に選定されました。

この事業を推進してきた「株式会社球磨村森電力」代表取締役であり、球磨村復興推進アドバイザーの中嶋崇史氏に、球磨村での取り組みの経緯や今後の展開について、お話を伺いました。

脱炭素と創造的復興を目指してー

球磨村における取り組みから見えてきた

地域共創によるカーボンニュートラル社会の実現。

現地に足を運び

地域の課題を掘り起こす

球磨村との出会いは2012年にさかのぼります。当時、私は早稲田大学院環境・エネルギー研究科で博士(工学)の学位の取得を目指すと同時に、同大学研究室のベンチャー企業・株式会社早稲田環境研究所の代表取締役を務めるなど、エネルギー・リサイクル分野のビジネスプロデュースを手がけていました。

そのような中で球磨村に伺った際に、球磨村森林組合の方から森林を活用した木質バイオマス(再生可能な生物由来の有機性資源)についてのヒアリングを行いました。ところがやりとりをしている中で、森林組合の方がふと「木は燃料として燃やすために育てているん

じゃない」と言われたんです。森林というのはエネルギー源になり得ると信じていた私にとっては、その言葉が強く心に引っかかりました。

それから毎月1回、東京から球磨村森林組合に足を運ぶようになりました。何かを依頼されているわけではないので、費用は全て自費です。その中で実際に森に入らせていただき、伐採の現場を見て、皆さんと交流を深めていくと、さまざまな林業の課題が見えてきました。

木材の価値を高めるために

木質バイオマス燃料の導入へ

過疎化が進み、超高齢社会である球磨村では、木を切る作業員はもちろん、何か新しい

ことを始めようとしても、取り組める人材が不足していることで、多くのことが停滞していました。

また、木材市場環境の変化もありました。市場ではグリーン材(未乾燥材)から乾燥材の需要が伸びてきており、出荷までに乾燥工程を加えることが当たり前になっていました。球磨村森林組合としても乾燥設備の導入を検討しようとなったのですが、そうになると乾燥のための燃料が必要です。

「それなら重油よりも、地域にある森林の木材を原料とする木質バイオマス燃料が良いのでは?」と、最初の話に戻ることにしたので。まずは2013年に、私も協力して環境省の補助金を獲得しました。そして、本格的な導入検討を開始し、2016年にバイオマス設備の導入に至りました。

その間に、人材育成や観光などの課題に対する取り組みも進めました。環境省から人材育成に関する補助金を獲得し、環境学習に着手し、観光面では球磨村にある鍾乳洞「球泉洞」きゅうせんどうの照明をLED化するためのコンテストを開催するなど、多方面で取り組みを展開しました。

このような取り組みの中で、行政機関とのつながりも深まり、球磨村の温暖化対策を策定する業務を引き受けるようになりました。

持続的な事業展開のために

球磨村に電力会社を設立

ここまで、順調に環境省から補助金を獲得してきましたが、人材育成や環境学習は1年で終わるものではありません。補助金がなくても継続して事業を進めるために、どうしたらよいか悩んでいました。

そこで設立したのが「株式会社球磨村森電力（以下、球磨電）」です。設立は2018年2月。球磨村は豊かな森林と、球磨川や球泉洞などの魅力的な観光資源があるものの、人口減少による地域経済の縮小という大きな課題を抱えています。球磨電は、球磨村との連携協定に基づき、収益を地域の問題解決に再投資し、球磨村の魅力を維持・発展・創造する役割を担うことを目的としています。実際には、村内の施設や一般家庭の屋根に太陽光発電を取り付け、そこから電力を供給していく

仕組みをつくり上げました。

豪雨被害で全てがゼロに

復興への熱意で

「脱炭素先行地域」に選定

しかし、ここで起きたのが球磨村をはじめ、熊本県南部に甚大な被害をもたらした「令和2年7月豪雨」です。役場の全施設、森林組合、村内の大型施設への電力供給が進み、ようやく事業として軌道に乗り始めていた頃でした。想定外の大きな災害が起き、全てが振り出しに戻ってしまったのです。

そんな時に原動力となったのが、球磨村の皆さんの災害から立ち上がろうとする熱意でした。それなら自分として何ができるのかと、もう一度ゼロベースで考えることにしました。

災害から立ち上がるためには、環境問題にも配慮した復興計画が必要となってきます。そこで私たちは、災害公営住宅が整備されるエリアなども含めた住宅や村有施設、民間施設において自家消費型太陽光・蓄電池をできる限り導入するとともに、荒廃農地や林地などを



活用した太陽光発電による電力などを供給することにより脱炭素化を図ることなどをまとめた「『脱炭素×創造的復興』によるゼロカーボンビレッジ創出事業」を、球磨村、球磨村森林組合、そして球磨電の3社で共同提案しました。

その結果、2022年6月に、2050年カーボンニュートラルの実現に向けた優れたモデル地域であることを示す環境省「脱炭素先行地域（第1回）」に認定され、この事業を継続的かつ包括的に支援するための交付金を獲得することができました。



地域の課題に取り組むことが アプローチの第一歩

この「脱炭素先行地域」に選ばれる条件には、実現性はもちろんのこと、横展開性、つまり他の地域への波及効果も期待されています。実は、すでに災害前から熊本県あさぎり町や五木村いっきむらとも事業を展開。2023年にあさぎり町では「株式会社あさぎりエナジー」を設立し、こちらでも環境省「脱炭素先行地域（第3回）」に選ばれています。同年、五木村でも「株式会社五木源電力」ごきげんでんりょくを設立しました。

また、全国の地域から高い関心をいただいております。愛媛県松山市や沖縄県などでもすでに事業が進行中です。

最近では、多くの企業から講演やインタビュー依頼も増えています。その際に、「地域にどのようなアプローチしたのか」という質問をよくいただきます。重要なことは、電力事業をやるうとか、補助金をもらおうとしてスタートしたわけではないということです。地域における事業において大切なのは、その地域の課題にいかに関心を傾け、地域住民が熱量を持って動き

始めるという共創的なプロセスを経ることが、何よりも重要であると考えています。

おかげさまで、この「脱炭素×創造的復興」によるゼロカーボンビレッジ創出事業」は、太陽光発電協会の「ソーラーウィーク2023」においても大賞を受賞しました。これだけ注目をいただいている理由は、決して電力事業だけの評価ではないと思っています。

私たちのアプローチは、あくまで地域全体です。まずは地域に足を運び、その地域のために何ができるのか、そして私が何を協力できるのか、熱意をいかに事業へと結びつけていくのか。そのプロセスを支援していくことが、私たちの役割だと感じています。

株式会社 球磨村森電力

- 本社所在地：〒869-6405
熊本県球磨郡球磨村
大瀬1121
球泉洞森の香房2F
- 電話番号：0120-748-166
- 事業拠点：本社
八代オフィス
福岡オフィス
東京オフィス

